本田宗一郎のおもい

積極安全
――事故を未然に防ぐという考え

創業者
本田宗一郎

正しい乗り方、安全運転を啓発する〝積極安全〟こそホンダの基本思想

本田宗一郎が残した〝積極安全〟という考え方は、事故が起こらないように正しい運転の啓発を進める気持ちから生まれた。この思想こそ、今日のホンダが目指す〝交通安全〟の取り組みを支える大きな柱だ。

自家用車やバイクが普及しつつあった1960年代、大きな社会問題となったのが交通事故による負傷者数や死者数の増加だ。東京オリンピックを控え、建設ラッシュに沸いたこの時期に社会問題になった「交通戦争」は、1970年に交通事故による死者数が1万6765人に達してピークを迎えた。その後、歩道などの整備や交通安全運動の推進もあり、交通事故による負傷者数・死者数は減少に向かったが、同時期に若者によるバイク事故の増加が社会問題に発展していった。

そんな中、創業者・本田宗一郎による〝事故を未然に防ぐ〟という考え方が、1970年に設立された安全運転普及本部をはじめとするホンダの安全運転普及活動の原動力になった。メーカーとして安全なクルマを作るのはもちろん、〝人〟に焦点を当てた安全啓発活動が重要だと考えたのだ。

この〝積極安全〟の思想は、現在もホンダの〝安全〟に対する取り組みに受け継がれている。全国7か所に設けられた「交通教育センター」で個人はもちろん、法人を対象とする幅広い参加体験型の安全運転研修を展開し、安全運転に関する啓発活動を実施している。また、二輪・四輪車の販売店では、交通安全啓発ツールを活用した手渡しの安全活動を行い、お客様や地域の安全を守る活動を続けている。

1964年、S600に国内で初めてシートベルトを装備して以来、安全装備の面でももちろん進化を続け、その取り組みは現在の先進の安全運転支援システムHonda SENSINGの開発・普及につながっている。レーダーセンサーとカメラによる画像解析により、周囲の状況をリアルタイムに把握し、ドライバーの運転を支援してくれるHonda SENSINGだが、衝突を予測してブレーキをかける衝突軽減ブレーキや誤発進抑制などの機能の作動条件や限界を過信したり誤解したりすると、交通事故に結びつきかねない。そのような事故を発生させないためにも、〝人〟に焦点を当てた安全啓発活動を継続し、機能を正しく理解して使ってもらうことが重要なのだ。

クルマやバイクに乗る方だけでなく、社会の誰もが安心し、安全に暮らせる「事故に遭わない社会」をつくりたい、それがホンダの願いであり、〝積極安全〟と〝安全技術の向上〟という啓発と技術の両面で挑戦を続けている。